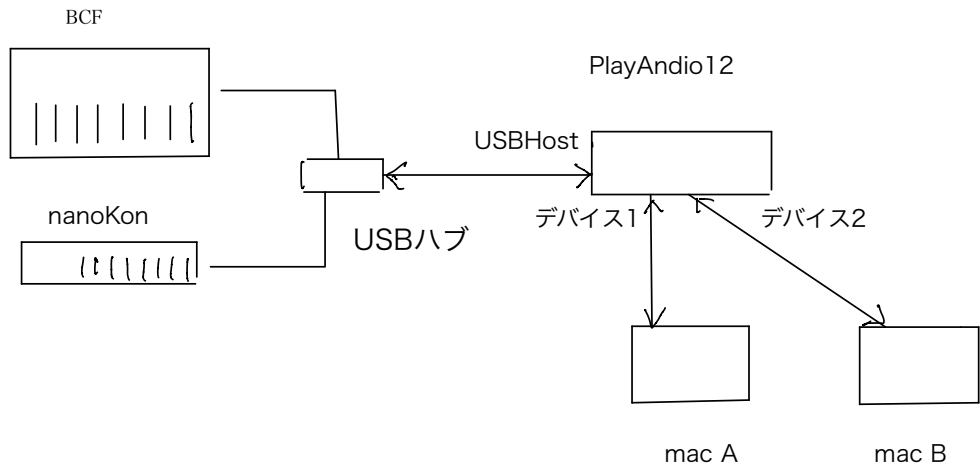
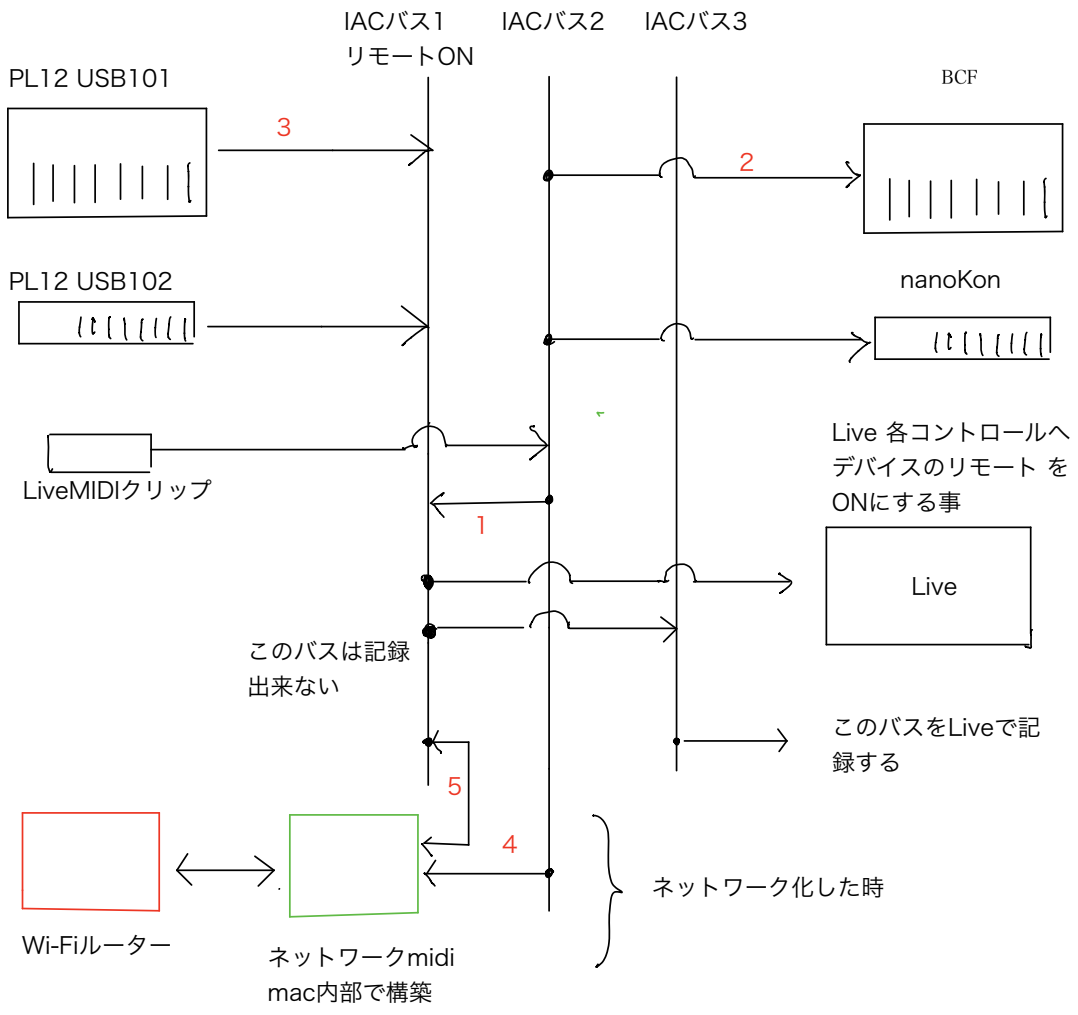
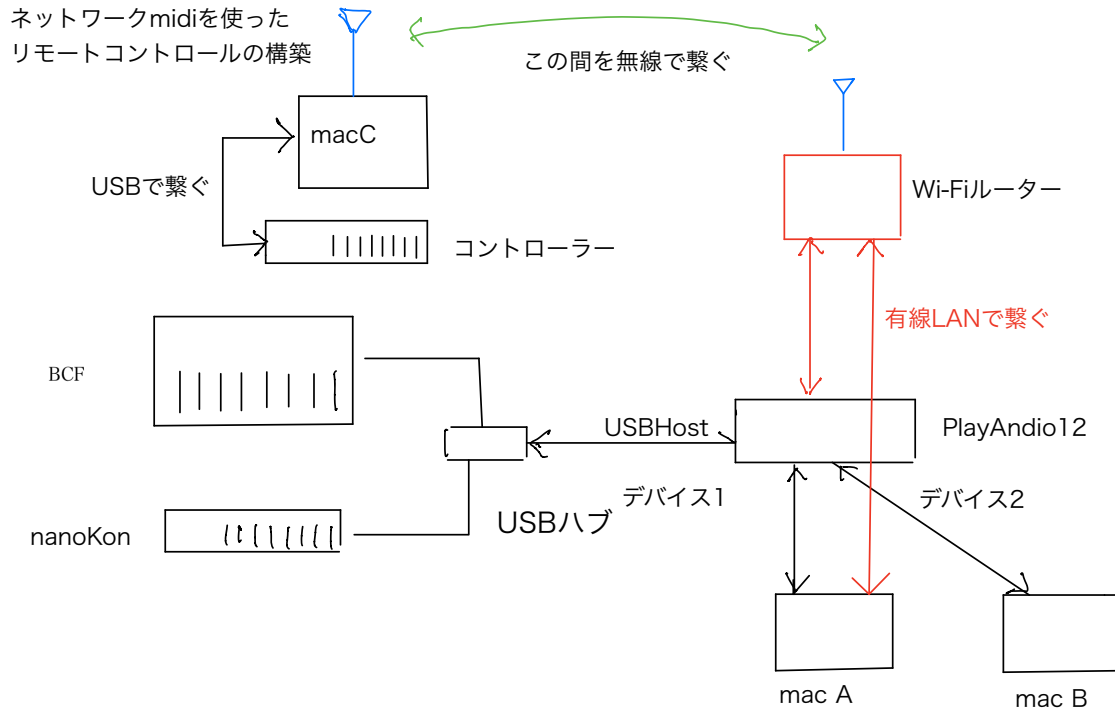


PlayAndio12を使った効果音叩き出しのシステム例



MIDI信号の流れ





赤色数字は下記トラックの解説参照

FOHもしくは調整室に設置したシステムに客席など遠隔地からアクセスして、コントロールするためのシステム構築について。

メインマシンはWiFiルーターに有線をつなぐ。また、PlayAudio12も有線をつなぐ。それぞれDHCPサーバーでアドレスを割り振るようしておく。

iPadとmacBookは同じWiFiに繋がるように設定しておく。

A iPadによるコントロール。

アプリを使つてのコントロールは、携帯性があるものの切っ掛けでの音出し等には不安が残る。

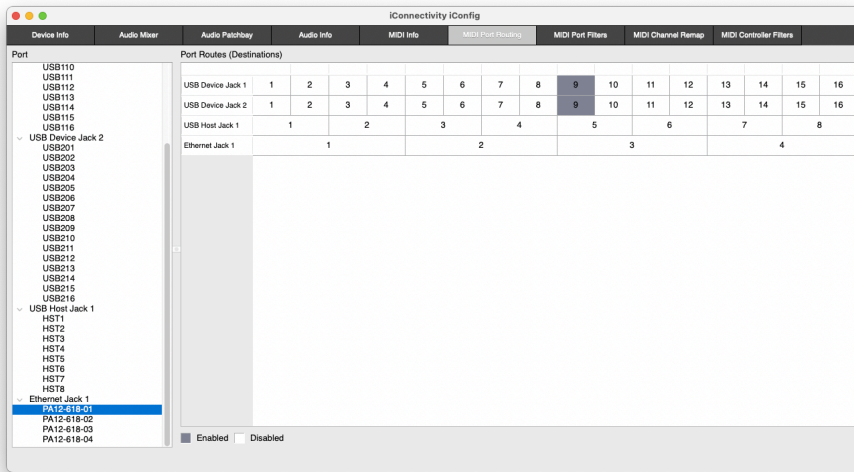
B MacBookとコントローラーによる、コントロール。

メインシステムで構築されたMIDIネットワークに、MacBookから参加してコントロールする。繋がれたコントローラーからは、ライブルーティングで信号を送り出す。

受け取った側では、ネットワークからUSBへ内部で繋いで送り出す事で、セカンドMacを同時に動かすことができる。USBホストに繋がれたコントローラーと同じ扱い。

Playaudio12のイーサネットは4系統あり、デフォルトでは、イーサの1はUSBの9chに繋がっている。(重要)

つまり、イーサのセッション1はUSBの9chとして扱うこと。

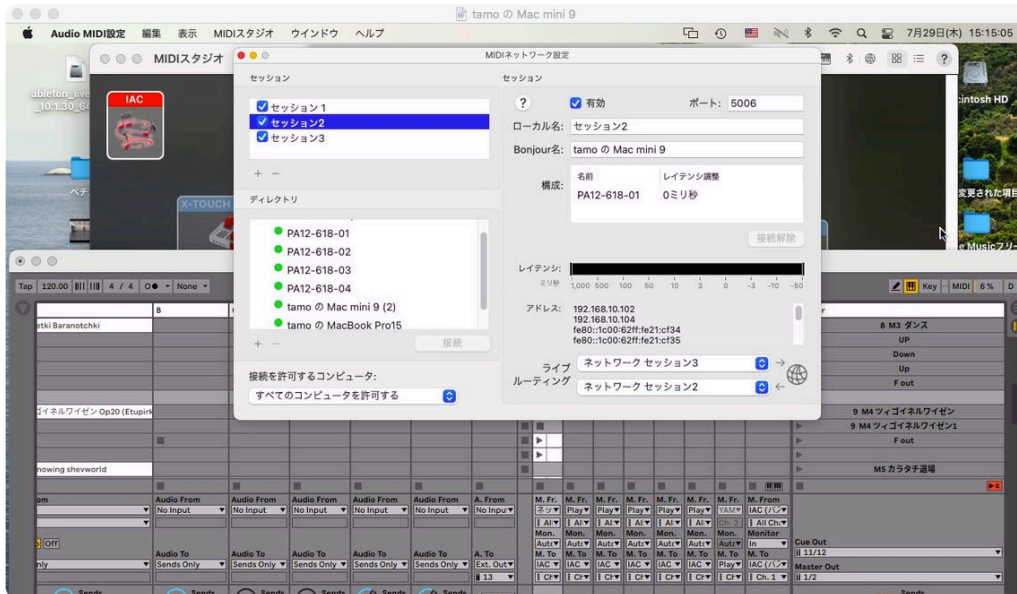


1. メインマシンでMIDIネットワークを作る。

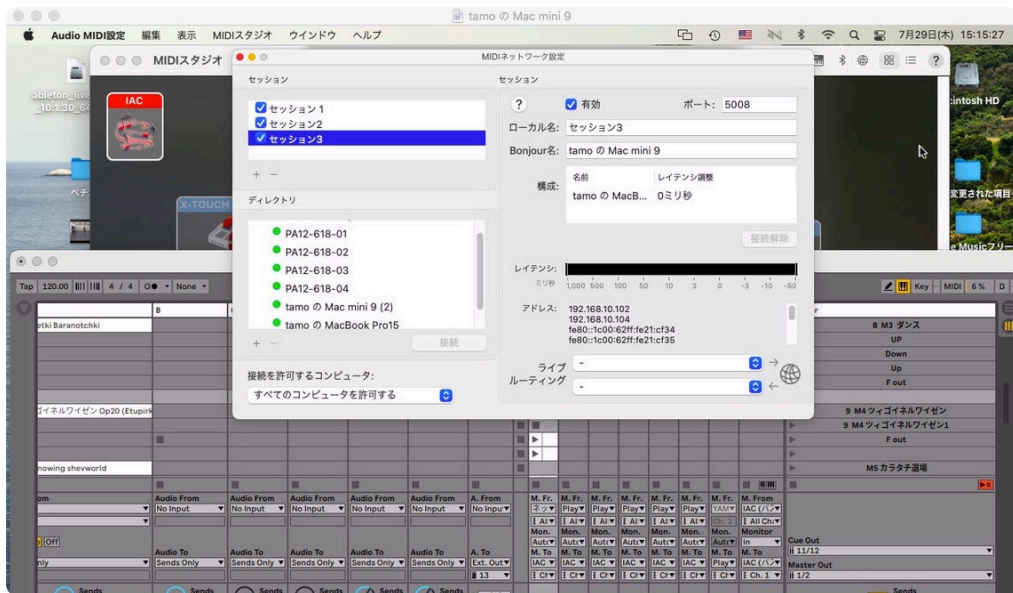
下図では、セッション2になっているが番号はなんでも良い。

接続先のディレクトリをPlayAudio12のイーサネット1にする。

セッション3では、リモート側のmacと接続するようにしておく。



PA12に接続

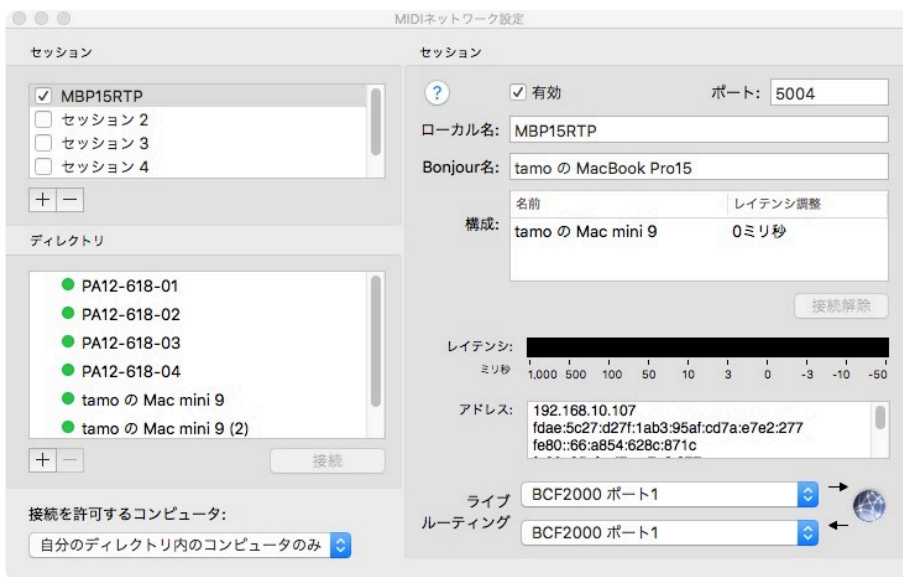


リモートに接続

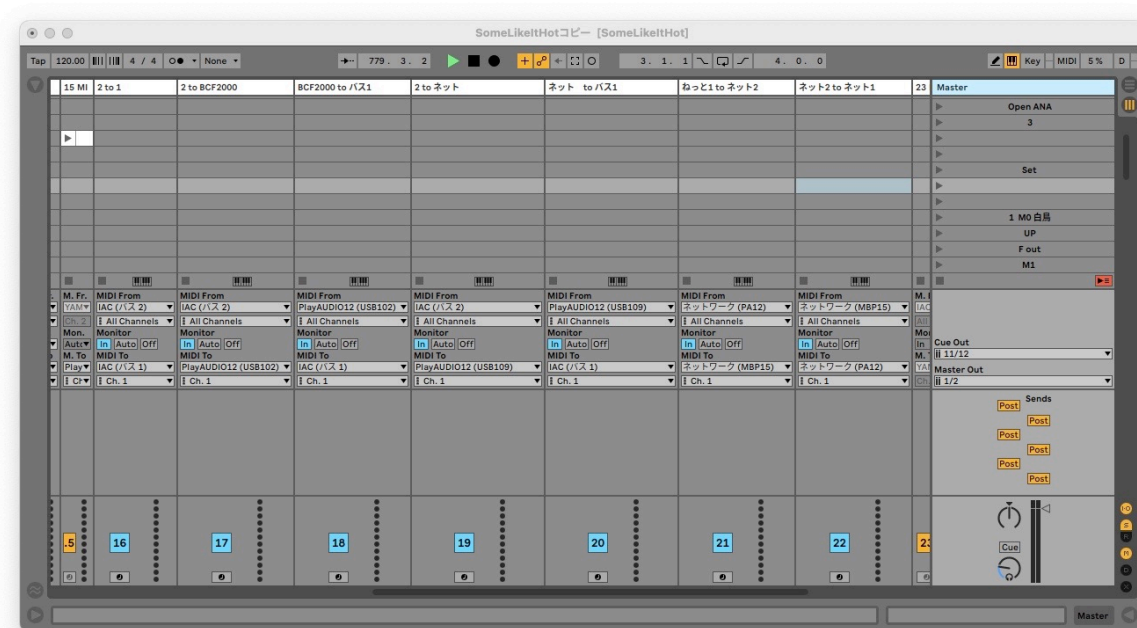
次はリモートコントロールする側のmacのネットワーク設定。

メインマシンからリモートのマシンへ接続したので、ここでは自動的にメインマシンに繋がっている。

そして、macに繋いだコントローラーをライブルーティングで、インとアウトに指定することで、コントローラーのmidi信号をネットワークに送り出したり、取り込んだりすることができる。(重要)



リモートからメインに接続



必要なトラックは7つ

1 バス2からバス1へ

2 バス2からコントローラ (BCF2000)へ

3 BCF2000からバス1へ

4 バス2からネットワーク(USB9)へ

プログラムからの信号をPA12の9chに送り出す。内部でイーサネットの1番に繋がれているので、信号はネットワークMidi 1へ送り出される。

5 ネットワーク(USB9)からバス1へ

USB9chに流れた信号をバス1へ送り、フェーダーなどをコントロールする。

6 ネットワークAからネットワークBへ

(4)番で送り出した信号をリモートへ出力する。

7 ネットワークBからネットワークAへ

リモートからの信号を受け取り、PA12へイーサネットで繋ぐ。送られた信号はUSB9へ。

これで画面共有をみながら、nanoKonやBCFでコントロールすることができる。

